

えんたくつーしん

No.5

令和2年12月発行

「絆で織りなす 住みよいまち上京」へ

次期上京区基本計画の策定に向け 令和2年度 第1回上京区まちづくり円卓会議 開催！

現在、上京区では、令和3年度から5年間のまちづくりの指針となる「次期上京区基本計画」の策定に向けて、区民の皆様をはじめ、学生や、中小企業家等の皆様から、多くの御意見・提案をいただきながら、策定の取組を進めています。この度、次期上京区基本計画策定に向けた検討等を行うため、「令和2年度 第1回上京区まちづくり円卓会議」を開催しました。円卓会議は上京区基本計画の推進等を図るための意見交換の場で、区内17学区の代表者、NPO、大学、公募委員等で構成されています。

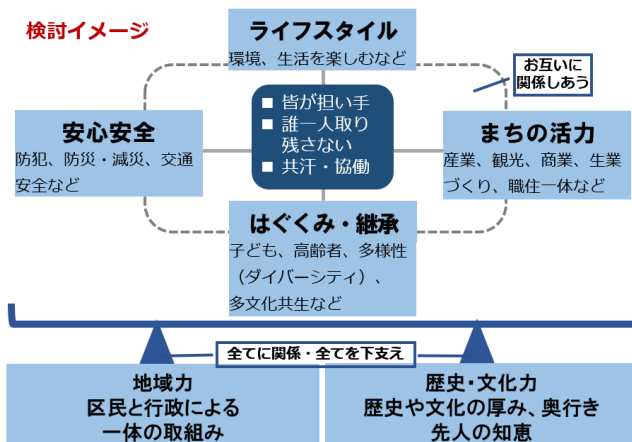
今回の開催手法

新型コロナウイルスの感染予防から、4部会の日程右記の通り分け、ZOOMを使用して開催しました。委員には事前にZOOMの使用ができるかどうか確認し、使用できる方は自宅等からの参加、それ以外の方は区役所の会場でiPad等を使用して参加してもらいました。区役所会場はソーシャルディスタンスをとって設営しました。

開催日程

7月28日	安心安全部会
7月30日	まちの活力部会
8月3日	ライフスタイル部会
8月4日	はぐくみ・継承部会

検討イメージ



意見交換のテーマについて

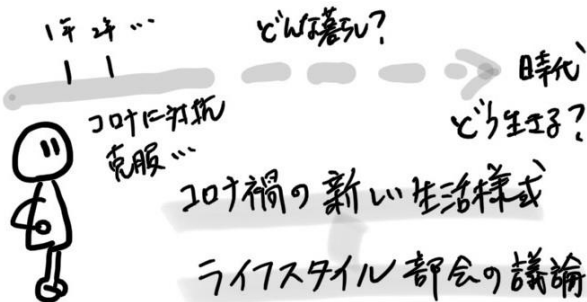
次期基本計画策定に向けての意見交換として①コロナ禍における生活、地域、価値観の変化について「気になっていること」について、②各部会検討資料3の方針1～4について付け足すべきこと、修正したほうが良いこと等について意見交換しました。

各部会の資料3と摘録 → <https://www.city.kyoto.lg.jp/kamigyoe/page/0000273870.html>

ライフスタイル 部会

- 方針1 地域力の維持・向上に向けた取組の推進
 方針2 文化と伝統を大切にするまちづくりの推進
 方針3 地球環境にやさしいまちづくりの推進

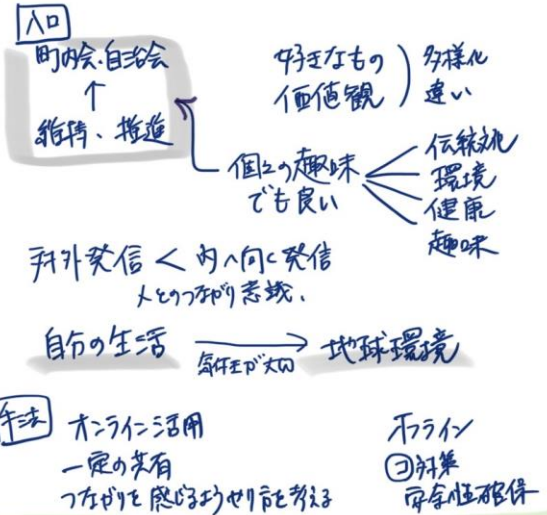
- ITリテラシーの格差＝世代格差（分断）
 →高齢者もスマホ、ITが必要と理解
- 情報が多角化→必要な人に届いてる？
- イベント中止→学生、外国人と地域の接点×
- コミュニティ単位の変容
 地域→好きなこと単位、価値観ごと
- 文化継承→新しい文化創造の機会
- 御苑のお茶会
 →個人の嗜好で様々なお茶会の形で実施
 →森、緑を大事に、増やす
- 体や心、生活を整えるために上京の文化を活用



小谷 真理 准教授
 同志社大学政策学部
 人とのつながりをどう結ぶか。

（価値の多様化
 価値観の集合体）

どのように
 地域全体の
 かに変えるか



安心安全 部会

- 方針1 「共助」「近助」を根幹とした「自助」「公助」との連携
 方針2 安心安全なまちづくり
 方針3 空き家対策等の推進

- コロナ禍で、地域の結びつき、絆の大切さに気づいた
- 民泊・ゲストハウスに誰も来ない
- 学区が民泊利用者向けに地域の広報できないか
- 近所の人とコミュニケーションとりにくい
- 災害の記憶を周知（台風、疫病、空襲）
- 自転車が「車輛」という意識が低い
- 白杖が自転車に巻き込まれる事故
- 自分ごととして考え動く人が出てきた
- 消防団と自主防災の垣根を低くする

大窪 健之 教授
 立命館大学理工学部



1. コロナ禍で取組例をどう再定義、精査するか
 → 新しいアイデアが出てくるのでは

2. 上京ならではの資源
 歴史文化に裏打ちされた資源

どう災害時にいけるか
 外国人、高齢者
 年々＝物資の支援拠点、
 （自宅、分散避難）

3. 伝統・絆の良さをいかした

新しい交流の形
 安心安全を支える
 より安全度の高い
 設計づくり



ジレンマ

行事はすべて中止、縮小
 集まると密、
 集まらないうとコミュニケーション
 にくい



上京の伝統的な祭り・行事
 ＝災害時に支え合う関係性
 維持・形を変えて継続すべき

少人数 分散実施 1対1

水先案内人とコミュニケーション
 による機会に

まちの活力 部会

- 方針1 地域住民の暮らしを担う身近な場の活性化
 方針2 地域産業や地域企業と連携した活力あるまちづくり
 方針3 ヒト・コト・モノをつなぐまちづくり
 方針4 上京ならではの資源を活かしたまちづくり

コロナ禍 → 顔の見える関係
 身近なコミュニティ
 「価値」再認識

吉田 満梨 准教授
 立命館大学経営学部



- ・コロナの影響は人によって違う
 →一括りの議論は成り立たない
- ・リモート会議の出席率は高いが、コミュニケーションの質や団結力は落ちている
- ・顔を合わすことの重要を感じる
- ・インターネットに乗れない人を切り捨てない
- ・観光拠点：寺・空き家×地域・行政・NPO
- ・糸へん業界の拠点→ビジネスマッチング
- ・卒業後学生が京都に残らない
 →企業が地域活動へ参加することに理解する必要
- ・各団体が連携し各々が持つ情報を集約、発信
- ・これまでやっていることの底上げ

(a) 地域内のリアルな交流 ← 強い結び

地元の賑わい
 店舗・商店街
 見どころ機会

地域・文化・資源
 (歴史、まち、土地、習俗)
 再発見

(b) 地域外の人々、若者等との接点拡大 ← 弱い結び

リモート等のツール活用
 地域に肉付する
 内口を拓く機会

既存の活動
 情報発信

(a) × (b)

リアルコミュニケーション
 地域資源連携

リアル拠点
 オンライン
 上京ならではの
 ストーリー
 将来の地域産業
 担い手の育成
 まちづくり

はぐくみ・継承 部会

- 方針1 多様な人が地域で活躍できるまち
 方針2 地域で子どもを育むまちづくり
 方針3 高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり

ソーシャルディスタンス
 (社会的距離) = 物理的
 距離

社会的「孤立」深めた

おっちゃん様：自由な生活
 コロナが 課題が強調された

- ・行事の中止→復活はエネルギー必要
- ・行事のない寂しさを味わい、来年どうするか考える機会にする
- ・在宅勤務で家庭生活：虐待、DV増加
- ・子どものストレス取り除く取組が必要
- ・居場所づくり：空間、役割、生きがい
- ・オンライン活用でつながりやすい人も
- ・高齢者にとって誰か傍にいて暮らし、生き方変わる←ソリデール事業



中井 歩 教授
 京都産業大学法学部



孤立状態
 地域行事が
 消えよう

怒り喜び
 お互いぶつ合うことが
 「見える」ようになる

居場所・出番 (役割) = その人たちの見える化) つながり
 楽しみ、悲しき共有

関係性をつくる ← 見える関係性にする
 知恵、ノウハウ

子どもたちを育むことが
 可能

見えないことを見えるようにするのが大事

ライフスタイル 部会

コロナと
共に生きる → どうやりくりするか
→ 最適な生き方を何? を探す。

- ① ICTの活用 ... 孤立化を防止
- ② 地域力の低下 → 各々の地域を存続を見守る
- ③ 若者(内・外) 地域でより生きてもらう
工夫の余地あり ← 一緒に生きていく
- ④ 若い人、世代間対話、おとなが成長する
- ⑤ 「伝統文化」どう育ち、新しくする?
→ 私たちが担い手という自覚も
- ⑥ コロナ暮らし = より良い生活にする価値



新川議長の総括



新川 達郎 教授
同志社大学大学院
総合政策科学研究科

安心安全 部会

- ① 離れていないといけない
近くて助け合えないといけない / 判断
リモートな状況
- ② 地域でどう、自助、共助、近助をつくり出す?
→ 遠くでつながる
対面
- ③ 地域の安全 お互いの見守り
本音の意味で 一緒に地域の安全を
守っていくという活動の促進
- ④ 学区の安全をともに守っていく
⑥ 可能性あり 外へ
・地域と内側からつながる
↓
どう地域に迎え入れていくか
地域で迎える仕組み
外へ地域の人になってもらうこと 地域
の安全

まちの活力 部会

- ① いまより暮らしには、まちの賑わいが必要
- ② 地域の「力」や「宝」が結びついていない

機会 → お互いの知恵を
軽いネットワークの
選択肢、蓄積、共有
マッチング

- ③ 文化・資源(歴史、まち、路地、宝、家)を活用
活動の拠り所、出会いの場: 新しいものを
生み出す

まちの活力 コロナに耐えうる力が発揮できる
まちが若い人から高齢者が元気に
暮らせる
色々な事業、生活が成り立つ

はぐくみ・継承 部会

生きがいをどうつくるか

- ① 子供、高齢者、外国人、障がい者
様々な立場の人が主役になる
- ② 町で活動できる場所、居場所 たくさん必要
地域の肉割りの中で暮らせる = 地域の力 ↑
- ③ 個人の希望に合わせて暮らせる地域
お互いの理解、支え合う社会) 一緒に暮らす
上京にある地域の資源
(歴史、伝統文化、資源、まちの
活動する地域団体
町会、社会)

**未来の希望を
叶える財産**

令和2年度 上京! MOWを開催しました

開催日時: 10月27日(火) 午後7時~9時

内容: 区総合庁舎4階において一部オンラインを併用し、

「上京! MOW」を開催しました。延べ38名の方にご参加いただき、次期基本計画に沿って、右記の6つのテーマについて参加者から提案いただき、テーマごとに検討を深めました。

ご提案いただいた6テーマ

- ・ まちの語り部サミット
- ・ 捨てられるはずのものの活用
- ・ 京都御苑のPRと活用
- ・ YONDE! プロジェクト ~コロナで郵送物が多くなって実は困っている人がいる?~
- ・ GPSアートを使ったオンラインごみ拾いパトラン (パトロールランニング)
- ・ 西陣の路地の活用



京都市
CITY OF KYOTO

お問合せ 上京区役所 地域力推進室 企画担当

(☎ 441-5029 FAX 432-0566 ✉ kamigyo@city.kyoto.lg.jp)

令和2年12月発行 京都市印刷物 第023146号